



すすめるけん

県がすすめている取り組みを紹介します！

協働を考えている皆さまはぜひ 「協働サポートデスク」をご利用ください

地域の課題が複雑・多様化し、行政だけの解決が困難となる中、課題解決の担い手となるNPOと企業、行政との連携・協働がますます重要になっています。それぞれの得意分野や特長を生かしながら役割を分担して、相乗効果の高い活動につながるよう、県では「協働サポートデスク」を設置し、連携・協働の支援を行っています。

こんな困り事はありませんか？

NPO



県や企業と連携して活動を広げていきたいけど、進め方が分からない。
相談内容に応じて、情報提供をはじめ、意見交換会の開催等により、理解を深めていただきます。

環境保全に関するイベントと一緒に取り組んでもらえるパートナーを探している。
イベントの分野に応じたNPOなどを紹介します。

企業



「協働」とは？ 異なる立場の者（NPOと行政、NPOと企業など）が、同じ目的を達成するために、お互いの知恵や力を持ち寄って、対等な立場で協力し合うという考え方や取り組みのこと

協働サポートデスク

NPOと行政、企業などの各種団体が連携した取り組みを検討する際に相談を受け付け、情報提供や助言、意見交換会の開催や事業化に向けたコーディネートなどの支援を行います。

☎095-895-2314

メール: kenmin.kyoudou@pref.nagasaki.lg.jp
<相談時間> 月～金曜 9時～17時45分
祝日・年末年始を除く



協働サポートデスク 長崎県 検索

その他NPO・ボランティアに関する支援

あなたの「やってみよう」を応援します 「県民ボランティア活動支援センター」

ボランティア活動をする上での相談や情報の発信、活動団体への会議室の貸し出しなどを行っています。

☎095-827-4852

長崎市出島町2-11 出島交流会館4階・5階
<開館時間> 火～金曜 9時～22時
土・日・祝日 9時～17時
月曜・年末年始を除く



県民ボランティア活動支援センター 検索

NPO・ボランティア情報ポータルサイト 「ながさきボランぽネット」

ボランティアの募集やイベント・セミナーの告知ができます。また、県内のNPO・ボランティア団体の検索や助成金などの役立つ情報を掲載しています。



ながさきボランぽネット 検索



夢をかたちに！

長崎県知事
中村法道

県内には、およそ500のNPO法人と2,500のボランティア団体があり、日々、地域の課題解決のために活動しています。こうしたNPOの方々をはじめ、県民、行政、企業などとの連携・協働による地域課題解決に向けた取り組みを積極的に支援し、共に支え合う地域づくりを推進します。

問合せ 県の県民協働課 ☎095-895-2314 長崎県県民協働課 検索



まえ はた
前畑造船株式会社
(佐世保市)

お話を伺ったのは
代表取締役
北村與志郎さん

1948年創業時から 数多くの船舶を建造

かつて戦艦大和の建造主任を務めたこともある芳井一夫が、佐世保港の中でも造船に適した前畑の浦に創業した会社です。東京湾や博多湾のクルーズ客船、桜島や沖縄などのフェリーをはじめ、防衛省船、漁業調査船、タンカー、漁船、貨物船、作業船など、各種船舶の建造・修理を手掛けてきました。特に国内を走る「内航船」の建造は実績・技術ともに国内トップクラスです。



設計室では、先輩社員の指導を受けながら若い社員がいきいきと働いている



九十九島遊覧船の「パールクween」(右)と「みらい」(左)。「みらい」は遊覧船として日本初となる電気推進船で環境にも優しい

船を造る仕事の魅力

現在は社員70名と協力会社の社員60名で、設計・建造・営業などの職務に当たっています。造船の現場は人の技術が頼りなので、責任が大きいですが、その分夢とやりがいのある仕事です。地元の九十九島を走る遊覧船「パールクween」と「みらい」も当社で建造しました。デザインや内装に工夫を凝らし、難しい作業もありましたが、無事に完成し、皆さんが楽しそうに乗船する姿を見ると、言葉にならない感動とうれしさが込み上げてきました。



県内で頑張っている企業や人に
エール(応援)を送ります！

若い世代が新しい 造船業を育てる時代へ

長崎県はかねてから造船業が盛んな県です。昭和50年代に造船不況の時代を経験しましたが、近年は船の需要が伸びていく傾向にあります。これからは先人が培った技術を継承し、若い世代が新しい造船業を育てていく時代です。当社も若い人や女性が働きやすい環境づくりに力を入れるなど働き方改革にも取り組んでいます。ものづくりに興味がある方は、ぜひ「船を造る仕事」に注目してほしいと思います。



「ぎょう鉄」と呼ばれる造船業特有の厚鋼板を曲げる加工風景。先輩社員から技能が受け継がれている



船の需要が高まっている今こそ、
若い人たちに活躍して欲しいですね。